

昆沙門前の水深20～40メートル。根の点在する場所を攻めるには「縦」の釣りが有効かつ楽しい

【連載】※月1連載 船釣りの作法

釣技
技食

其の二十七

冬のカワハギを「縦」で愉しむ。

佐々木さんの仕掛けはシンプル。ガン玉で仕掛けの動きを調整する

今期のカワハギ釣りは各地で順調、関東では冬を迎え水深30メートル台の深みへ魚が集まりつつある。そんな冬ハギ釣りの名場所として知られるのが三浦半島の南端、剣崎（昆沙門）城ヶ島沖。剣崎松輪港・一義丸にて昆沙門（城ヶ島沖の20～40メートルを狙ったこの日、鈴木孝さんと佐々木健仁さんはカワハギ釣りの基本であり根周りや深場に効く「縦」の釣りのみで釣ることにした。

ワハギのタナをリサーチする。動作は簡単。オモリを海底に着けたら離して、竿を持ち上げ、止めて、ゆっくり下ろしながら、どこでアタリがくるか探る。

このとき、穂先を小さく、ときに大きく、遅く、ときに早く掃りながら、どの速度で誘うとエサを取られるのか、あるいは取られないのか探る。この段階が、スナイパー釣法で言う「パイロット」だ。

カワハギのサワリやアタリはかすかな抵抗感だったり、穂先が震えるだけだったり、非常に小さいことが多い。そのシグナルを捉えるのが竿の役目。この日、鈴木さんはス

佐々木さんは1メートル以上を、鈴木さんは底から1メートルまでを手分けして探っていく

◎佐々木健仁 学生時代よりカワハギ釣りに熱中、大会で好成績を取める。カワハギとの駆け引きに魅了され、マルイカ釣りにも精通する。

◎鈴木孝 東京湾をホームグラウンドとしカワハギを筆頭に、アナゴ・マルイカ、フグなど、アタリを取って掛ける繊細な釣りを得意とする。

タックルの作法

目感度か手感度か、両方か。
カワハギ釣りは竿で楽しくなる。

「縦の釣りは硬い竿がいいイメージがありますが、佐々木くんのように軟らかい穂先のステファーンSS M180を使って目感度で宙釣っていくのも楽しいもの。私が使ったMH175は目感、手感のバランスが取れたモデルで今日の食いにも最適。冬の深場はHH170で手感を存分に楽しみたいですね。最も目感度に振ったS180も含め、ステファーンSSは目感、手感を備えた、カワハギ釣りがさらに楽しくなる4本のラインナップです（鈴木孝）」

【ステファーンSS MH175】

●SPEC 全長1.75m、継数2、仕舞寸法92cm、自重74g、オモリ負荷20～40号、本体価格4万円

【ステファーンSS M180】

●SPEC 全長1.80m、継数2、仕舞寸法94.5cm、自重74g、オモリ負荷20～35号、本体価格3万9500円

佐々木さんはステファーンSS M180で縦の釣りを満喫



▲穂先は素材の配合と製法を見直すことで従来にない強さを実現したカーボンソリッド、タフテック穂先▶滑らかな巻きとコンパクト性に加え、グリップ、Xシートフロントトリガーとの相性も抜群のステファーンSS 100HG



▲誘っているときは中指でブランクスに触れて手感を高め、薬指をXシートフロントトリガーに掛けてロッドを安定させている



▲合わせからリーリングでは人差し指をXシートフロントトリガーにしっかりと掛けてリールを保持する



途中、最も硬いステファーンSS HH170も使用

【ステファーンSS HH170】

●SPEC 全長1.70m、継数2、仕舞寸法89.5cm、自重73g、オモリ負荷20～40号、本体価格4万500円

るまでのタイミング（時間）。間が合っていないときの対応はシンプル。竿と誘いは変えず、ハリス長だけを変える。エサが取られて掛からないのであれば短く、逆なら長くする。まるでレースカーが路面に合わせてタイヤを交換するように、鈴木さん、佐々木さんともにハリスを換えてすぐにベストセッティングを出す。とはいえ、ハリスの長さは2種類のみ。スナ

「間(ま)」とは？

○カワハギがエサをついばみ始めてからハリを口にするまでの時間



▲エサだけをついばんでいる状態。竿からはサワリが伝わっている

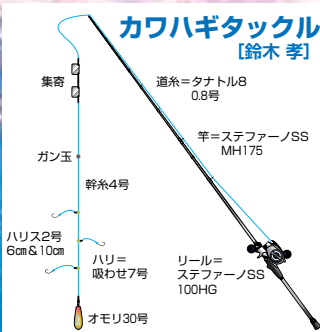
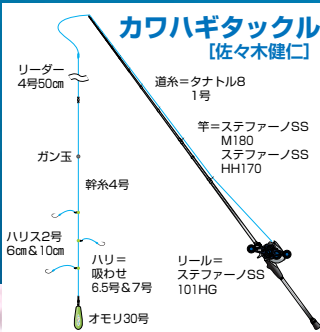


▲ハリが口に入ったとき、掛けられるアタリが出る。この間が、「間」



ハリスの長さは「間」の長さ。目安は、活性高い=短く、活性低い=長く

▲間が合わず、釣れないとき、誘いや竿を変えずにハリスの長さを調整してみる



▲起伏があり小型やゲストも多い場所。魚種は分からないが浮いた反応がしばしば出ていた



▲仕掛けを1.5メートル上げて、竿を下ろしていく。どこでアタリが出て、何が釣れてくるのかを探っていく



▲朝はタナを上げるとキタマク。ラ、下げすぎるとトラガスなど底のゲスト



▲1.5メートルから1メートルへ下げる時に出るアタリでカワハギを連発する

縦の釣りの作法

◎おいしくいただく分と、水圧で膨張してしまった魚のほかはリリースしたい

リリースの作法



▲中空のフキ抜き用エードルで腹部を浅く刺して空気を抜く



▲オケで泳がせて元気に泳ぐ魚はリリース

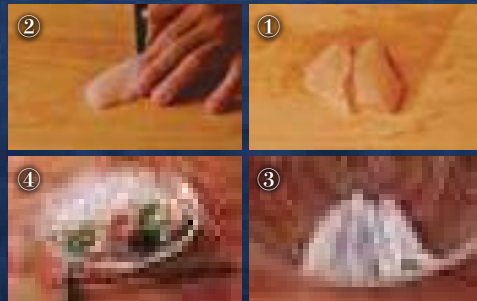
食の作法

カワハギの薄造り

～透き通る白身に甘み広がる～



▲肥えたキモと一緒にポン酢でいただくのがおすすめ



①カワハギを三枚に下ろして欄取りする
②包丁を少し浮かせるようにして薄く切る
③薄く美しく切るには刃を前後させず、根本から先まで全体を使って引き切るのがコツ
④皿に盛り付け、お好みの薬味を添えれば完成

イパー釣法の名手2人の縦の釣りの方法論は、実はシンプルなのだ。だがそれは確実なエサ付けと的確な動作とサワリを逃さぬ感度のタックルがあつてこそ。簡潔ながら簡単には真似できないところが、カワハギ釣りの奥深さであり、愉しさである。



「船釣りの作法」動画公開中。

YouTube SHIMANO TV
公式チャンネルにてご視聴いただけます。

© Presented by SHIMANO

©取材協力 / 三浦半島 剣崎松輪港・一義丸